平成16年7月15日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土博物館（青梅市駒木町1-684 0428-23-6859）

わが祖父の手記に見る日露戦争

今から100年前は明治37年(1904)で、日本は帝政ロシアと戦端を開きました。日露戦争の始まりです。今年は開戦100年に当たるため各地で催し物が企画されたりしているようですが、我が家に祖父の参戦記録が残っていましたので、紹介します。

祖父の名は神森信太郎。6人兄弟の長子として明治17年6月に生まれました。「明治38年8月25日東京出発の節是ヲ求ム。『出征筆記』第拾五師団歩兵第五十九連隊第一中隊第三小队第二分隊神森信太郎」と手帳に鉛筆で記されています。

【本文】

「明治38年8月21日第15師団ニ志願。8月23日編成外宿中坂下駄屋ニ宿泊ス。同25日午前2時半同家出発ス。品川発6時半、沼津ニテ昼食、浜松ニテ夕食、米原ニテ朝食、大阪ニテ昼食、姫路ニテ夕食、糸前ニテ朝食、広島ニテ昼食。同月27日午前7時40分広島ニ下車シ、天神町27番地桑原万太方ニ泊ス。28日午前5時半整列シテ宇品ニ同7時ニ着シ11時ニ乗船、午後1時半出帆ス。

9月1日清国大連着、9月2日上陸ス。3日夜11時頃乗車シ4日午前2時頃出発ス。5日昼頃鉄嶺着、1里程行軍シ西方ナル五角堡子ニ泊ス。

9月6日五角堡子ヲ出テ7里程行軍シ秋津堡子ニ1泊ス。7日1里半程西方ナル八家溝ニ行キ5日間滞在シ6日目ノ12日同地ヲ出発ス。12日3里程西南ナル花牛堡子ニ至リ滞在中。10月2日東方1里塚有ル康家屯ニテ連帯ノ大相模アリ、同月3日大隊教練。4日ニハ東方1里半程ニアル水家溝地ニテ連隊教練アリ。17日連隊散兵教練アル。19日花牛堡子ヲ出発シ途中ニテ1泊セズ、20日昼夜行軍シ午後3時鉄嶺着。22日午前8時大連着。23日安芸丸ニ乗船シ出帆ス。24日朝鮮仁川港ニ上陸ス。

25日午前汽車ニテ京城ニ至リ、寿町ニ外泊ス。11月7日当隊ハ東営ニ入ル。第三大隊ハ中営ニ営舎ス。11月9日天皇陛下ヨリ平和ノ勅諭ヲ賜リシヲ読ミ聞カセ有リタリ。同ジク皇太子殿下ノ詔勅及ビ当軍司令官ヨリノ御サトシモアリタリ。16日市中不穏ナル為非常ナル巡察ヲナス。18日愈々朝鮮国モ我ガ伊藤公ト談判ノ結果保護国トナリ新日本トナリタリ(中略)

明治39年3月17日午後3時朝鮮京城市西営連隊本部ノ営庭ニテ除隊式ヲ挙行セラレタリ(後略)」

《解説》

開戦2年前の明治35年、日本はイギリスと日英同盟を結びロシアに対抗しました。そして明治37年(1904)2月10日、ロシアに対して宣戦布告を行いました。8月19日～翌年1

月 1 日まで旅順攻戦を行い、4 万人に及ぶかという多くの死傷者を出しました。有名な 203 高地の戦闘もこの攻戦の一つです。

明治 38 年 5 月 27・28 日には日本海海戦の戦闘で勝利を収めました。6 月 9 日にはアメリカ大統領ルーズベルトの仲裁で休戦が成立し、8 月 10 日にはポーツマスでの第 1 回講和会議が開かれました。両国間で虚虚実実の駆け引きが行われたが、9 月 5 日に日露間でポーツマス講和条約が成立しました。

祖父の資料と比べてみると、祖父は休戦期間中の出征になります。日本はポーツマスで講和に向けた交渉を進める一方で、戦費が無いにもかかわらず、戦争継続の準備をしていたということがわかります(できるだけ有利な条件で講和条件を結ぼうという意図があったものと思われます)。また、この当時の鉄道は、主要幹線に関してはほぼ日本中を網羅していたようですが、広島まで 2 日半もかかったことがわかります。

「後略」の部分になりますが、「11 月 29 日暴徒起コリ処々ノ官舎ニ放火シ……我が隊モ実弾射撃ヲナシ数百名ノ土匪ヲ捕ヘタリ。」とあり、戦争終結後も治安が安定していなかったようです。

当時、兵隊検査は 20 歳です。祖父は 21 歳で(戦闘終結後)戦地へ赴きましたが、あと 4~5 年早く生まれていれば、激しかった旅順攻戦あたりで命を落とし、今の私は存在しなかったかもしれません。

(文責 神森 正)